人權蹂躪の事實調査をして當局を詰る

◇警務部長と膝詰談判 横濱船渠の爭議

既報の如く横濱船渠爭議に就て蹶起した自由法曹團は八日午後爭議監視のため來濱今日迄の經過及官憲の[illegible]を

調査の上 縣當局者の今後の方針に對する意見を聽取すべく縣知事を訪問せるが不在に付佐々木内務部長代つて會見更に一同警務部長を

訪問して 先づ松谷辯護士は「官權が勞働者に壓迫を加ふる形跡がある」と質問してその實例として「何等危險とも思はれぬ演說會を中止したり或は懇談會を演說會なりとて多數の警官が土足で席上に

闖入して 何等爭議に關係ない席主駒田某を二階から突落し何等の危險もなきに廿餘名を檢束して二十四時間以上も留め置き尚も東者中の佐野廣田の兩職工は頭部及腰に全治一週間市村光男は右足

大腿部等 に一週間齋藤忠治、小宅富治は同じく三日間の負傷者を出したことなど人權蹂躪の行爲がある私達の調査に依ると其他警官の不法と認める點が多けれど部長の感想如何」と質問した處が部長は「如上の事實は報告と

相違して をる故取調べて見なければ解らない」と答へたので更に安藤辯護士から「警察は今後も從前の如き態度を以て對するや」と質問せしに部長は「事件の進行に據る」と答へたので尚同辯護士より「爭議に關しては内務省から達示があるにも拘らず甚だ

遺憾の點 が多い故今後は注意して貰ひたいと同時に其際檢束者放還の處置を依頼して一行は引取つたが一行辯護士は八日午後六時から藤田町の忠孝館で大演說會を開いた因に松岡駒吉氏は七日夜放還引續き八日檢束者五十三名の内十三名を殘して他は放還せられた（八日横濱電話）

法曹團來濱 大に詰る

縣廳警察訪問 近く起訴せん

八日横濱電話＝横濱船渠會社職工の爭議に對し縣警察部の横暴を極めた壓迫に憤起した東京の少壯辯護士から組織されて居る義勇法曹團一行十五名は縣當局の官權濫用の

行爲 を糾明すべく八日午後二時横濱着の省電で來濱した先づ戸部町の罷業本部に到り警官の暴行を詳に聽取した上神奈川縣廳を訪ひ知事不在の爲め佐々木内務部長と會見し大いに詰る處あり更に新聞の記事に今井署長と

面談 して是亦小甚くとつちめて藤田町の忠孝館の演說會へ臨んだ、尚横濱船渠爭議に對し警察に檢擧された者は前後數回で五十餘名の多きに達したが八日迄に放された者は松岡駒吉外十五名で尚三十餘名が檢束されて居るが法曹團は其警官の暴行に對しては證據物件を纏めて人權蹂躪の訴へを其筋に提出する筈であると

職工一萬六千に 賃の二割値下

燐寸工組合より嘆願書 値下げ一時中止の議を

神戸市内に於ける燐寸業者、日本、中央、東洋、帝國の四大會社が過日職工賃銀二割の値下を發表したので職工側では恐慌を來たしたが下手にマゴつけば一層の馬鹿を見るので交渉の全部を關西燐寸工組合に一任したので組合では五日各關係者會合を遂げ現職工一萬六千人に對し此際會社の發表した二割下を一時中止せしむべく嘆願書を提出することゝなり六日交渉委員を選び會社側に之を提出する、ことゝなつた

責任當局者を 詰問し廻る

横濱へ乘込んだ辯護士連 兩署長を傷害罪で訴ふ

横濱船渠勞働爭議に關し警官の壓迫人權蹂躪に憤慨した東京自由法曹團員松谷辯護士外十餘名は八日午後二時半横濱驛着職工罷業團の幹部五十餘名の

出迎を 受け四臺の自働車に分乘して組合本部に赴き六日夜警官の亂暴の際暴れ廻つた箇所の實地檢證を行ひ次で井上知事を訪問したが不在の爲め佐々木内務部長に面會し今回の警官隊の横暴殘虐は親しく踏査すると新聞の記事以上なるは甚だ

遺憾で あるとで縷々希望を述べ一時間許りで會見を了り同四時久米警察部長に面接し警察横暴と憲法無視を詰問し希望條件として

一 檢束者を全部放還すること
二 亂暴警官を調査し相當の處分すること
三 今後勞働爭議の内容に干渉せざること
四 理解を以て法律警察處罰令を濫用せざること

を提出し警察部長の

諒解を 得次で戸部警察署に今井署長を訪問厳談の後六時半藤田町忠孝館の人權蹂躪問題大演說會に趣き大氣焰を擧げ警察當局を糾彈したが同辯護士團は三日でも四日でも横濱に

滯在し 横濱地方裁判所の南谷檢事正にも面會して意見を述ぶる筈である又警團の爲め五日乃至一週間治療を要する負傷を受けたる職工佐野庄太郎、市村光雄、小宅富春の四名は難波病院の診斷を以て辯護士團

後援の 下に久米警察署長又は今井戸部警察署長を相手取つて傷害の告訴を提起することゝなつた（横濱電話）

關西總同盟 應援

横濱船渠爭議を 野武士組も又

日本勞働總同盟關西聯合會では六日横濱船渠の爭議に應援すべく緊急會議を開いた結果應援することになり安藤理事は同夜十一時の汽車で横濱へ向け出發狀況調査の上直に打電し、其結果に依り神戸、大阪、京都の三支部から合計十四五名の應援委員を派遣する筈であるが野武士組に於ても個人として應援する筈で既に同組の瀬野、山内の兩名は横濱に赴き居り應援に盡力して居るさうである